

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	中央区
学 校 名	開平小学校
学校長名	岩本 由紀

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・開平小学校では、第6学年41名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数ともに大阪府平均・全国平均を上回る結果となっている。平均正答率で、全国平均と比べ国語で4ポイント、算数で10ポイント上回っている。平均無回答率は、国語が全国平均の4分の1、算数が全国平均の3分の1以下といずれも低く、最後までしっかり考え、回答しようとしていることが分かる。

児童質問紙については、自己有用感に関する項目で肯定的回答率がとても高い。学習や読書に関する項目についても肯定的回答が多く、友達との意見交流を通してより意欲的に学習に取り組む児童の姿も顕著にあらわれた結果となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

各領域において概ね大阪市平均、全国平均を上回っており、文章を読み、中心となる文を見つけて要約することや、目的に応じて文章と表を結びつけて考えることはよくできている。また、漢字や敬語についても、理解し、正しく使うことができている。記述式の問題に対するポイントの伸びがみられ、無回答率の低さからも、自分の考えを伝えるように書こうとする意欲が感じられる。「知識及び技能」の情報の扱いに関する事項が、唯一平均を下回っている。一つ一つの情報を読み取ることはできているので、原因と結果など、情報と情報との関係について丁寧に読み取っていくように指導していく必要がある。

〔算数〕

全ての領域において大阪市平均、全国平均を大きく上回っている。伴って変わる二つの数量に関する設問については、正答率が100%と98%と高い結果が出ている。記述式の設問に対しても、各設問とも平均から15～20ポイント近く上回り、求め方と答えや式を言葉を用いて述べるができている。これは、本校が学力向上のために取り組んできている「児童が主体的に解決する算数科の授業」の成果であると考えられる。データの活用については、全国・大阪市の平均は超えてはいるものの、他分野の伸びに比べて低いので、情報活用能力を高めていく必要がある。

質問紙調査より

自己有用感に関する項目の肯定的回答の割合や、将来の夢や目標を持っている児童の割合が高いことから、日々の学習において、自ら意欲的に取り組もうとする姿勢につながっていることが分かる。「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目の肯定的回答の割合の高さは、これまで学力向上の研究で取り組んできている自ら学び合い深め合う授業の工夫の結果であると考えられる。

「国語の勉強が好きですか」「算数の勉強が好きですか」の項目とも、最も肯定的な回答が平均値の2倍近くあり、それぞれの教科が「大切だと思いますか」「授業の内容はよく分かりますか」の項目についても最も肯定的な回答の割合が圧倒的に高いことから、学習にとっても意欲的であることが分かる。また、「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていますか」

「授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか」などの項目においても、最も肯定的な回答の割合がとても高く、教科横断的に学びを深めている様子が見えてくる。

今後の取組(アクションプラン)

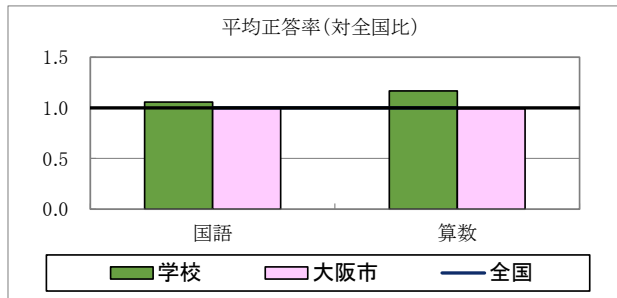
これまで取り組んできた主体的・対話的で深い学びを重視した授業づくりをより一層重視して継続的に取り組み、友だちと学び合いながら、主体的に学びに向かう子どもの育成に努めていく。そのために、児童が興味・関心をもてるような課題設定の工夫や児童の考えを引き出す発問や板書の工夫、学びを日常に生かす工夫に取り組んでいく。TT指導や習熟度別指導を取り入れながら、個に応じた指導の充実を図る。

ICTを活用しながら、正しい情報や必要な情報を適切に見つけ出したり、情報を相互に関連させて考えたりする機会を、教科横断的に積極的に取り入れ、情報活用能力を高めていく。また、情報を他者に分かりやすくまとめ、その考えを伝える力の育成に取り組む。

【 全体の概要 】

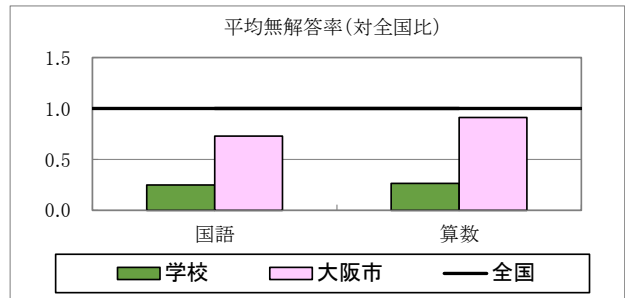
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	71	73
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



平均無解答率 (%)

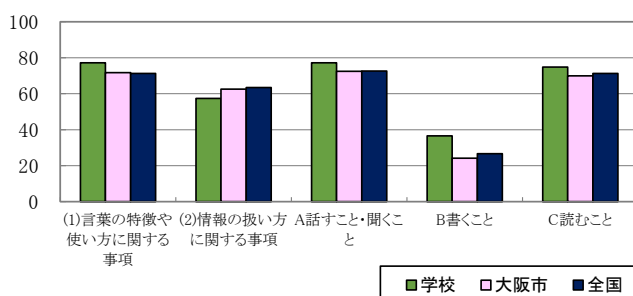
	国語	算数
学校	1.2	0.9
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4



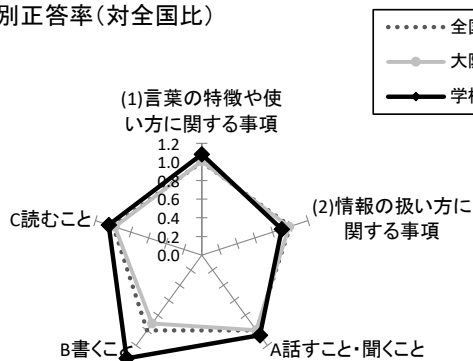
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	77.1	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	57.3	62.6	63.4
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	77.2	72.4	72.6
B 書くこと	1	36.6	24.2	26.7
C 読むこと	3	74.8	69.9	71.2

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



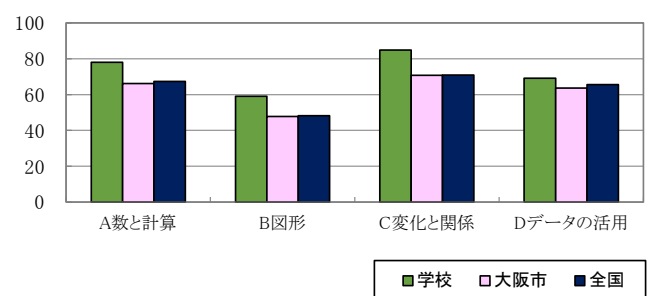
国語 領域別正答率(対全国比)



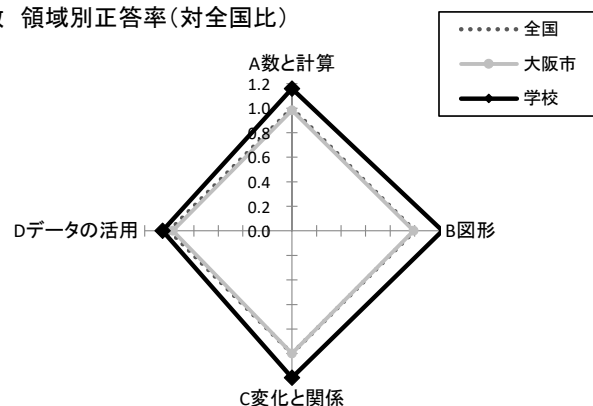
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	78.0	66.1	67.3
B 図形	4	59.1	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	84.8	70.8	70.9
D データの活用	3	69.1	63.6	65.5

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



算数 領域別正答率(対全国比)

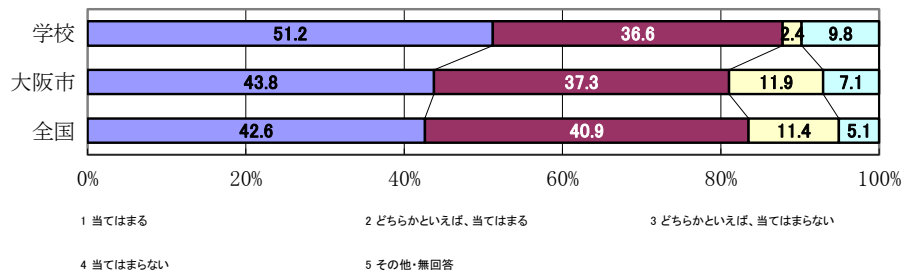


児童質問紙より

質問番号
質問事項

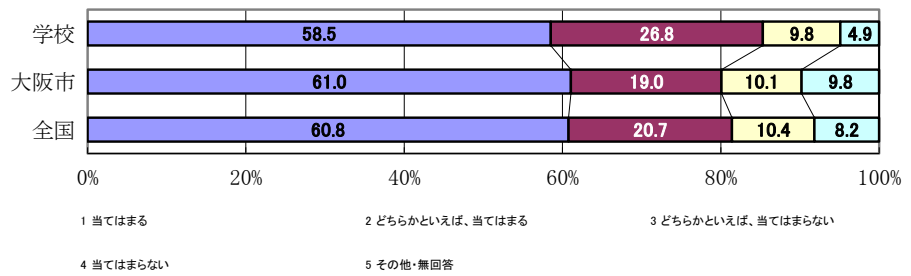
4

自分には、よいところがあると思う



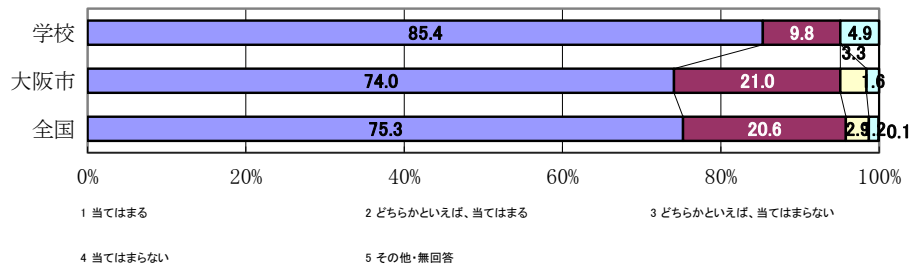
7

将来の夢や目標を持っている



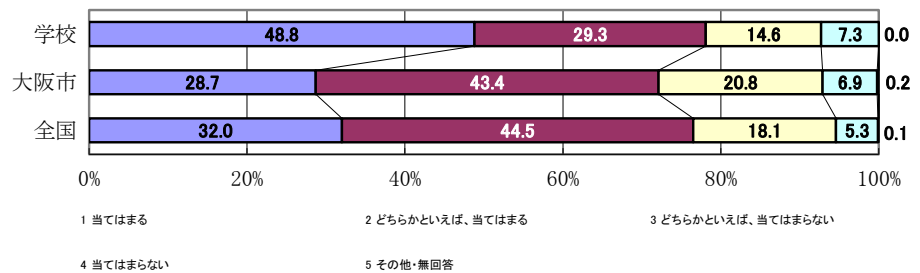
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



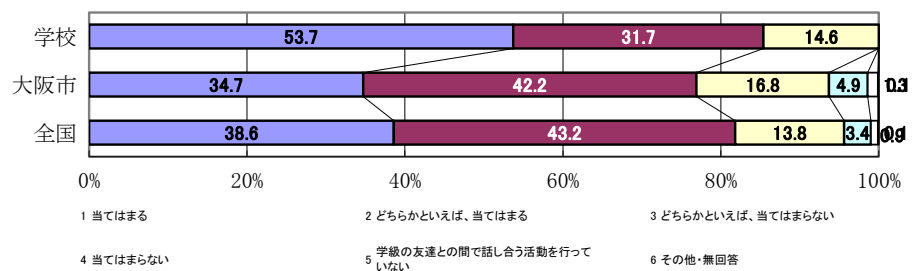
13

自分と違う意見について考えるのは楽しい



36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

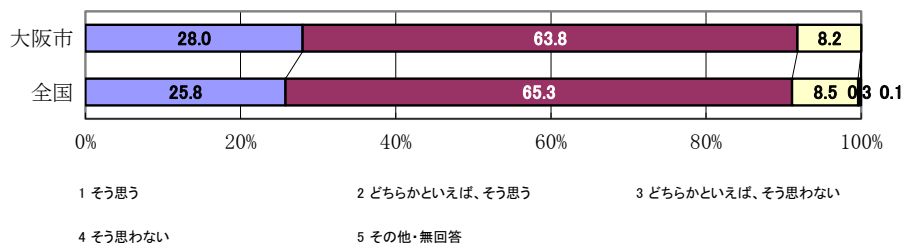
質問番号

質問事項

8

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強している

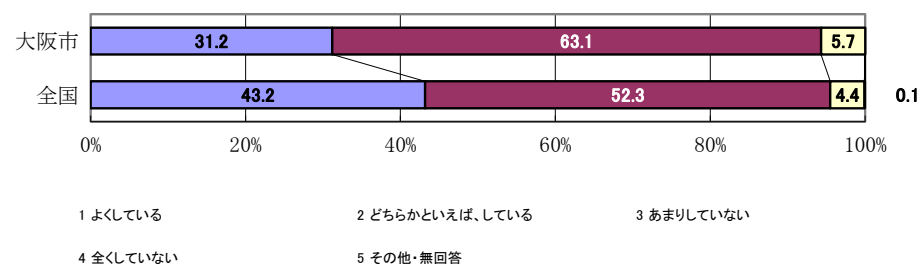
学校「そう思う」を選択



20

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

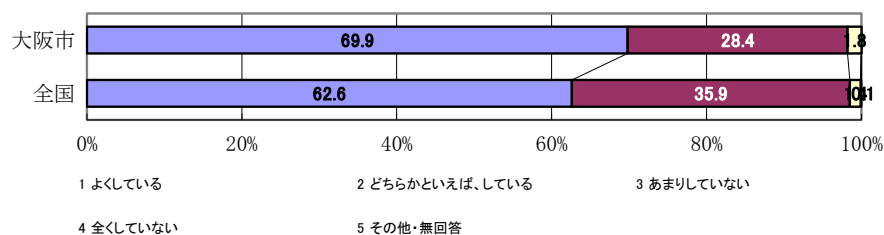
学校「よくしている」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

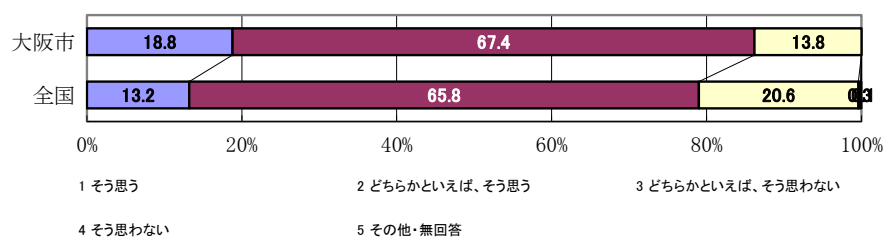
学校「よくしている」を選択



27

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができています

学校「そう思う」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している

学校「よく行った」を選択

